

1年生国語課題

※1週間分

4月8日（水）	<p>①漢字『常用漢字オールクリア』の第1回（p.4～5）に取り組み、丸付けをする。</p> <p>②春課題問題集『国語小町』の確認テストの大問一、二に取り組み、丸付けをする。</p>
4月9日（木）	<p>①漢字『常用漢字オールクリア』の第2回（p.6～7）に取り組み、丸付けをする。</p> <p>②春課題問題集『国語小町』の確認テストの大問三、四、五に取り組み、丸付けをする。</p>
4月10日（金）	<p>①漢字『常用漢字オールクリア』の第3回（p.8～9）に取り組み、丸付けをする。</p> <p>②『漢文学習必携三訂版』（p.10～11）の（ア）（イ）（ウ）の表をノートに写し、『漢文学習必携三訂版 総合演習ノート』「熟語の構造」（p.2）に取り組み、丸付けをする。</p>
4月11日（土）	<p>①漢字『常用漢字オールクリア』の第4回（p.10～11）に取り組み、丸付けをする。</p> <p>②『改訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法』（p.6～7）を読み、p.7に掲載の四「歴史的仮名遣いの読み方」と◎2「五十音図」をノートに写す。『改訂版 読解をたいせつにする 体系古典文法学習ノート』「ことばときまり」（p.2～3）に取り組み、丸付けをする。</p>
4月12日（日）	<p>①漢字『常用漢字オールクリア』の第5回（p.12～13）に取り組み、丸付けをする。</p> <p>②『漢文学習必携三訂版』（p.12～13）の表を写しながら、内容を理解する。</p>
4月13日（月）	<p>①漢字『常用漢字オールクリア』の第1回～第5回までをまとめたテストプリントに取り組み、丸付けをする。</p> <p>②前日に学習した内容を復習し、『漢文学習必携三訂版』（p.18の1、2）と、『漢文学習必携三訂版 総合演習ノート』「文の構造」（p.3）に取り組み、それぞれ丸付けをする。</p>

- ・プリントやテストは丸付け後、間違ったところをしっかりと見直しをする。（何回も書いて覚える。）
- ・上記課題のほか、中学校卒業までに身につけていない部分の復習など、各自で考えて勉強すること。
- ・翌週分については、4月13日(月)に連絡します。

常用漢字オールクリア

確認問題 1

☆一問4点×二五問

一、次の《 》内を漢字に直しなさい。

- ① 《ジコウ》のあいさつをする。
- ② 消しゴムを《シヤクヨウ》する。
- ③ 《フロク》がついた雑誌を買う。
- ④ 《エヒメ》県はみかんが名産だ。
- ⑤ 数多くの《ビトク》が備わっている。
- ⑥ 多くの《キョクセツ》をへて成功した。
- ⑦ 《ダサン》のない友情で結びついている。
- ⑧ この町は《トウジ》客でにぎやかだ
- ⑨ 時計の《デンチ》を取りかえる。
- ⑩ この町の人口は《リュウドウ》的だ。
- ⑪ 《キカイ》体そこの練習をする。
- ⑫ 《バイエン》でうめの香りを楽しむ。
- ⑬ 車の《シカク》に入って見えない。
- ⑭ 入学式で《シユクジ》を述べる。
- ⑮ 《カガク》技術が進歩する。
- ⑯ 水の《ソセイ》を調べる。
- ⑰ 文意の切れ目に《トウテン》を打つ。
- ⑱ 木の《ネンリン》を数える。
- ⑲ 走り高とびの《キロク》をとる。
- ⑳ 《インサツ》技術の発展がめざましい。

①	③	⑤	⑦	⑨	⑪	⑬	⑮	⑰	⑱
時候	付録	美德	打算	電池	器械	死角	科学	読点	記録
②	④	⑥	⑧	⑩	⑫	⑭	⑯	⑱	⑳
借用	愛媛	曲折	湯治	流動	梅園	祝辞	組成	年輪	印刷

二、次の《 》内を漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- ① 《世間体》を気にしながら生きる。
- ② 健康保持のために《滋養》を摂る。
- ③ 「万物は《流転》する」という考え方。
- ④ 火事で貴重な文化財が《焼失》する。
- ⑤ 客を泊める準備を《調》える。

①	③	⑤
せけんてい	るてん	とこの
②	④	
じよう	しょうしつ	える

P5 7級
P13

組番
氏名

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十五点)

「英雄」は「サキ婆」とともに、山に住む猟師の「老人」のもとを訪ねて一週間ほどを過ごし、最後の夜を迎える。

「こうしてひとり山に住んでいると、あの月が何事かわしに話しかけているのが、わかるんじゃない。」

老人がぼつりと言った。「そんなものかの。」サキ婆が月を見て言った。

「人間の言葉とは違うのじゃが、夜中に林の中を歩いていて、誰かに見られているような気がする時は決まって月か星が頭の上にある。わしは学も何もないから上手いことは言えんが、①耳の奥にたしかに聞こえるんじゃない。」その声がか？ 月はなんと言うつもりですか、あんたに。「サキ婆が嬉しそうな声で聞いた。「上手いこと言えんのだが、②わしのやつて来たことを皆知っていて、それでもわしを許してくれているような気がするのじゃ。」「ほお、許してくれるか。」「うーむ。」老人は唸るような声を出して、月にむかつてうなずいた。

「英坊ちゃんには聞こえるかの。」サキ婆が言った。

③英雄はじつと月を眺めて、首をかしげた。

「たぶんわしだけが感じていることではない気がする。あの殺した猪とて、月を見上げていただろうと思う。」「あれだけ美味かった猪はそのくらいのことはしとるだろうて。」④サキ婆が声を殺して笑った。老人がつかれて笑い声を上げた。サキ婆が鍋の中の肉をつまんで口に入れた。(中略)

最後の夜のサキ婆の歌声は、岩場から切り立つように降りてひろがる山々に込みわたり、激しく踊る姿は欠けた月に重なって、青くきらめく幻の舞いに映った。老人はサキ婆をじつと見つめ、時折サキ婆の歌を口ずさんでは手拍子を取っていた。ゆっくりと星が周るように、時間が三人の回りを過ぎて行つた。

英雄は、ふと静寂がやって来る度に月と星々を見上げた。月が何事か自分に語りかけてくれるのを耳を敬て待つのだけれど、ただ月光が身体を突き抜けるだけだった。英雄は手を月にかざしてひろげてみた。月光が指先に当たって透き通るように光った。月光がふるえているのか、自分の指がふるえているのかわからなかった。英雄は自分の手に鼻を寄せて、匂いをかいだ。風の匂いなのか、山の匂いなのか、甘い香りがした。聞こえないけど、聞こえる。匂いはないのに、匂う。見えないけれど、見える……。英雄は老人が先刻言った月の話しかけているものが、そんな伝え方を自分にはしていないかと思った。

(伊集院 静『海峡』)

問一 傍線部①「耳の奥にたしかに聞こえるんじゃない。」とあるが、何が聞こえるというのか。十字以内で答えなさい。

問二 傍線部②「わしのやつて来たこと」とは何か。十五字以内で答えなさい。

問三 傍線部③「英雄はじつと月を眺めて、首をかしげた。」とあるが、この時の「英雄」の心情を説明したものととして適当なものを二つ、次から選びなさい。

ア、喜び イ、疑問 ウ、不安 エ、拒絶 オ、焦り カ、興味

問四 傍線部④「サキ婆が声を殺して笑った。」とあるが、この時の「サキ婆」の心情の説明として、適当なものを次から選びなさい。

ア、「老人」をからかいつつも、その言葉に理解は示している。
イ、「老人」の言葉と心情を理解し、強い共感を覚えている。
ウ、「老人」の考えを理解できず、ばかげたことだと思っている。
エ、「老人」の言葉に大いに感動し、彼に好感を抱いている。

問五 本文の説明として最も適当なものを、次から選びなさい。

ア、山での厳しい生活を通して、たくましく自立していく「英雄」の姿が、豊かな自然の幻想的な光景とともに描かれている。
イ、猟師の人生を振り返る「老人」の姿と、まだ幼く「老人」の思いを理解できない「英雄」の姿とが対照的に描かれている。
ウ、山での美しい自然との出会いから大人へと近づいていく「英雄」の姿が、「老人」や「サキ婆」の視点から描かれている。
エ、「老人」や「サキ婆」との話をきっかけに自然と向き合い、「老人」の言葉を理解し成長していく「英雄」の姿が描かれている。

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二十五点)

これまでの教育では、人間の頭脳を、倉庫のようなものだと見てきた。知識をどんどん蓄積する。倉庫は大きければ大きいほどよろしい。中にたくさんものが詰っていればいるほど結構だとなる。

せっかく蓄積しようとしている一方から、どんどんものがなくなっていくたりしては①ことだから、忘れるな、が合言葉になる。ときどき②在庫検査をして、なくなっていないかどうかをチェックする。それがテストである。

倉庫としての頭にとつては、忘却は敵である。(注1) 博識は学問のある証拠であった。ところが、こういう③人間の頭脳にとつておそるべき敵があらわれた。コンピューターである。これが倉庫としてはすばらしい機能をもっている。いったん入れたものは決して失わない。必要ときには、さっと、引き出すことができる。整理も完全である。

コンピューターの出現、普及にともなつて、④人間の頭を倉庫として使うことに、疑問がわいてきた。コンピューター人間をこしらえていたのでは、本もののコンピューターになううわけがない。

そこでようやく創造的人間ということが問題になってきた。コンピューターのできないことをしなくては、というのである。

人間の頭はこれからも、一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならないだろうが、それだけではいけない。新しいことを考え出す工場なくてはならない。倉庫なら、入れたものを紛失しないようにしておけばいいが、ものを作り出すには、そういう保存保管の能力だけではしかなかったが。

だいいち、工場にやたらなものが入っているのは作業能率が悪い。よけいなものは処分して広々としたスペースをとる必要がある。それかと言って、すべてのものをすててしまっっては仕事にならない。整理が大事になる。

倉庫にだって整理は欠かせないが、それはあるものを順序よく並べる整理である。それに対して、工場内の整理は、【 X 】整理である。

この工場の整理に当たることをするのが、忘却である。人間の頭を倉庫として見れば、危険視される忘却だが、工場として能率をよくしようと思えば、どんどん忘れてやらなくてはいけない。

(注1) 博識に広くいろいろな物事を知っている。また、その状態。

(外山 滋比古『思考の整理学』)

問一 傍線部①「ことだから」の本文中での意味を答えなさい。

問二 傍線部②「在庫」とは何のことか。本文中から一語を抜き出して答えなさい。

問三 傍線部③「人間の頭脳」がコンピューターよりも優れているのは何か。十五字以内で答えなさい。

問四 傍線部④「人間の頭を倉庫として使うことに、疑問がわいてきた」のはなぜか。次の空欄に入れるのに適当な部分を、本文中から五字程度で抜き出さない。

人間の頭脳は() においてはコンピューターにかなわないから。

問五 本文中の【 X 】に入る最も適当なものを、次から選びなさい。

- ア、あるものを使いやすいように並べかえる
- イ、目障りなものをいったん退けておく
- ウ、作業のじやまになるものをとり除く
- エ、在庫をすつかり処分する

問六 本文の内容に合致しないものを、次から選びなさい。

- ア、これまでの教育においては、たくさんの知識があればあるほどよいと考えられてきた。
- イ、コンピューターが出現した以上、人間の頭脳はもはや倉庫として役に立たなくなった。
- ウ、コンピューターの出現によって、「創造的人間」という考え方が注目されるようになった。
- エ、かつてはよくないこととされた「忘却」も、人間の頭脳にとって大切なことである。

三、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(二〇点)

これも今は昔、田舎の児の比叡の山へ登りたりけるが、桜のめでたく咲きたりけるに、風のはげしく吹きけるを①見て、この児さめざめと泣きけるを見て、僧のやはら寄りて、「静かになどアかどうしてうは泣かせ給ふぞ。

この花の散るを惜しう覚えさせ給ふか。桜ははかなきものにて、かく程なくいうつろひ候ふなり。されど

も、それだけのことでさのみぞ候ふ。と慰めければ、散ってしまうことは桜の散らんは

、しいてどうとすることがありますよ、いつこうにかまいませんあながちにいかげせん、苦しからず。我が父の作りたる麦の花の散りて、実の入らざらん思

ふが侘しき。」といひて、さくりあげて、よよと泣きければ、うたてしやな。

問一 二重傍線部ア「かう」、イ「うつろひ」を現代仮名遣いに直しなさい。

問二 傍線部①「見て」、②「慰めけれ」の主語を、本文中からそれぞれ漢字一字で抜き出しなさい。

問三 「児」が泣いている理由を「僧」はどのように推測しているか。二十字以内で説明しなさい。

問四 この文章の作者の心情を説明したものととして、適当なものを次から選びなさい。

- ア、桜が散るのはしかたがないことだと理解している「児」の聡明さに感心している。
- イ、父親が作る麦の花が散ることを心配する「児」の親孝行ぶりに感動している。
- ウ、僧の話を理解しようとせずに泣いている「児」の幼稚さにあきれられている。
- エ、桜の花が散ることを何とも思わない「児」の味気ない発言に落胆している。

四、次の問いに答えなさい。(10点)

問一 次の□の中に、読む順番を数字で書きなさい。

① □ □ □。

② □ □ □ □ □。

③ □ □ □ □ □ □。

問二 (※訓点を省略しています) 次の各文を書き下し文に改めなさい。

① 望山月。

② 不入虎穴、不得虎子。

五、次の問いに答えなさい。(20点)

問一 次の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。

① 想像力に乏しい。 ② 自分の行いを省みる。 ③ 軽率な態度をとるな。 ④ 任務を遂行する。

問二 次の傍線部のカタカナを、漢字に直しなさい。

① サイバンを傍聴する。 ② ビミヨウな色合いを味わう。 ③ 利潤をツイキユウする。 ④ 成功をオサめる。

問三 次のことばの意味を、後から選びなさい。

① 白羽の矢が立つ ② 水をさす ③ たかをくくる ④ 襟を正す
ア、大したことはないと決めてかかる。 イ、じゃまをする。
ウ、多くの中から選出される。 エ、気持ちを引き締める。

問四 次の熟語の対義語を、漢字で答えなさい。

① 義務 ② 保守 ③ 現実 ④ 特殊

問五 次の単語の品詞名を答えなさい。

① 黒板 ② ところが ③ 話す ④ 健康だ

一 現代文

問一	月が話しかける声。
問二	動物を殺し続ける。
問三	イ・カ ※順不同
問四	一（問一・二）各5点×2、問三各2点×2、問四各5点、問五各6点
問五	エ

一 /25

二 現代文

問一	一大事（大変）だから。	問二	知識
問三	新しいいこと	問四	え出す能力。
問四	保存管の能力	問五	ウ
問六	問六	問六	イ

二 /25

三 古文

問一	ア こう	問二	①	兎
問三	桜の花が散るのを惜し	問三	②	僧
問四	エ	問四	③	

三 /20

四 漢文

問一	(3) 3 ニ 1	(2) 5 レ 4 ニ 1	(1) 3 レ 2 レ 1。
問二	虎穴に入らずんば、虎子を得ず。	山月を望む。	

四 /10

五 ことば

問一	(1) とぼ	(2) かいそつ	(4) すいこう
問二	(1) 裁判	(3) 微妙	(4) 収
問三	(1) ウ	(3) ア	(4) エ
問四	(1) 権利	(3) 理想	(4) 一般
問五	(1) 名詞	(3) 動詞	(4) 形容動詞

五 /20